

都道府県名	秋田県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	能代市立第四小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊教育	計	教員数
学級数	4	3	3	3	3	3	3	22	30
児童数	116	94	111	108	106	99	8	642	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力が身に付き、豊かに学び合う授業の創造

2. 内容与方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 1～3年生・国語
個に応じた多様な学習形態を追究するため。
- ・ 4～6年生・国語
チームティーチングによる指導を実施し、きめ細かな指導を行うため。
- ・ 1年生・算数
学級増の加配による入門期におけるきめ細かな指導を実施するため。
- ・ 2～6年生・算数
昨年度までの成果を生かし、チームティーチングによる個に応じた多様な学習形態を追究するため。
- ・ 3～6年生・理科
専科の教諭と学級担任とのチームティーチングにより、観察・実験等で効果的な指導をするため。

(2) 年次ごとの計画

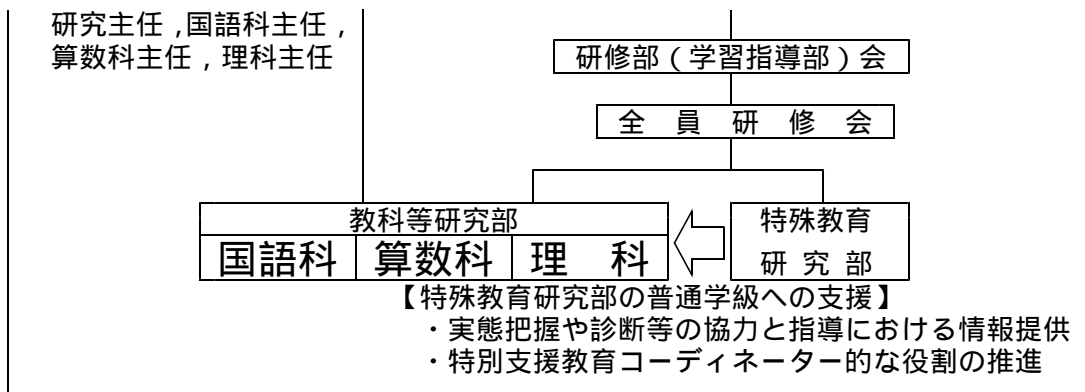
平成15年度	<p>テーマ 確かな学力が身に付き、豊かに学び合う授業の創造</p> <p>仮説 ・教材・素材との出会いを大切にし、明確なねらいや課題をもつことによって一人一人が思いや願いをもちながら進んで学ぼうとする意欲が持続するであろう。</p> <p>・学習の過程を大切にし、課題解決の見通しをもたせ解決の方法を学ぶ指導や評価を積み重ねることによって、主体的に学ぶ態度が身に付くであろう。</p> <p>・互いのかかわりを大切にし、交流の場を意図的に設定したり目的に合った表現方法を指導したりすることによって、学び合う喜びを体得するであろう。</p> <p>研究内容・方法 個に応じた指導方法や指導体制の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームティーチングによる指導の工夫と充実 ・レディネスや習熟度、学習ペース、学習コースに応じた指導の実践 ・個の実態を把握し、作業速度に応じた対応 <p>基礎・基本の定着を図る学習指導の工夫</p>
--------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・到達目標を明確にした授業づくり ・指導過程の工夫（指導方法と学習形態の在り方，課題意識をもたせるための工夫） ・定着を図るための学習過程の工夫 ・学び合う場の工夫 <ul style="list-style-type: none"> 一人一人を大切にしている指導と評価の一体化 ・より授業に生かす評価規準の見直し（算数と理科） ・学習過程に応じた評価の工夫 ・評価を生かした個別指導の実施（パワーアップタイム等） ・自己評価・相互評価により，学ぶ楽しさを味わわせ，学ぶ意欲を高める工夫 <ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の定着を図るための「パワーアップタイム」の設置と活用
--	---

平成16年度	<p>テーマ（仮） 確かな学力が身に付き，豊かに学び合う授業の創造</p> <p>仮説（仮）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと教材・素材との出会いを大切に，ねらいを明確にして課題をもたせることによって，一人一人が思いや願いをもちながら進んで学ぼうとする意欲が持続するであろう。 ・学習の過程を大切に，課題解決の見通しをもたせ解決の方法を学ぶ指導や評価を積み重ねることによって，主体的に学ぶ態度が身に付くであろう。 ・子ども同士のかかわりを大切に，交流の場を意図的に設定したり目的に合った表現方法を指導したりすることによって，学び合う喜びを得ることができよう。 <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年次の研究の検証と研究方針の修正 「学び合い」を通して学ぶ意欲を喚起する授業づくり 個に応じた指導方法や指導体制の工夫 ・チームティーチングによる指導の工夫と充実 ・レディネスや習熟度，学習ペース，学習コースに応じた指導の実践 ・個の実態を把握し，作業速度に応じた対応 基礎・基本の定着を図る学習指導の工夫 ・到達目標を明確にした授業づくり ・指導過程の工夫（指導方法と学習形態の在り方，課題意識をもたせるための工夫） ・定着を図るための学習過程の工夫 <ul style="list-style-type: none"> 一人一人を大切にしている指導と評価の一体化 ・学習過程に応じた評価の工夫 ・評価を生かした個別指導の実施（パワーアップタイム等） ・自己評価・相互評価により，学ぶ楽しさを味わわせ，学ぶ意欲を高める工夫 <ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の定着を図るための「パワーアップタイム」の活用
--------	---

(3) 研究体制





平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1) 個に応じた指導方法や指導体制の工夫

- ・個に応じるための発展的な学習，補充的な学習等の在り方をいくつか検証することができた。学習活動の設定，コース選択における配慮事項とポイント，そのための学習展開・形態がいくつか提示され明らかになってきた。
- ・学習内容と日常生活との関連をおさえた指導と，コース別学習等の学習形態を工夫したことによって，子どもたちは達成感や充実感をもつことができ，学習への意欲が確実に高まっている。また，子どもたちはコース別学習を楽しみにして意欲的に取り組んでいる。
- ・習熟や興味に応じたコース別学習により，学習内容を確実におさえることができたとともに，学習への意欲やよい意味での緊張感を持続させ，集中して取り組む子どもが多くなった。また，基礎・基本の定着が図られていない子どもへは丁寧に指導することができ，自信がついてきている。
- ・国語・算数・理科における「発展的な学習・補充的な学習展開モデル（案）」を作成し，日々の授業に生かすことができた。また日常の授業における「きめ細かな指導授業記録」を蓄積し，互いの授業づくりの参考とすることができた。

(2) 基礎・基本の定着を図る学習指導の工夫

- ・1単位時間で，どんな力を身に付けさせるか，ねらいを常に意識しながら，子どもに合う方法で学習を進めることで，基礎・基本の定着は図られてきている。
- ・1単位時間の中で，何ができるようになればいいのか，どんな学び方をすればいいのかを明確にして，適切な「学習課題」を提示することで，子どもたちは目的をもって学習に取り組むことができるようになった。
- ・学習のアンケート（5月実施）の分析より，本校の子どもたちにおいても，グループ学習や体験的な学習を好むことなどが明らかになり，授業づくりに生かすことができた。
- ・課題追究や実験や観察，ものづくり，操作活動などをグループで行うことができるように学習活動を工夫した。その中に話し合いなどで交流する機会を多く設けることにより，喜んで伝え合い，相談したり考えをふくらませたりできるようになった。
- ・学び合いを助けるための教具や，補充的な学習において子どもの理解を助ける教具など，学習や目的に合った教材・教具を工夫することができた。
- ・ペア学習・グループ学習を取り入れ，お互いの考えを交流させて学び合う中で，個々の学習を確かなものしていくことができた。例えばグループで高め合う学習や一つの課題を追究する学習，ジグソー学習の形を取り入れた学習を行うことにより，子どもたちは積極的に互いにかかわり合い，より確かに基礎的・基本的な内容を習得することができた。

(3) 一人一人を大切にす指導と評価の一体化

- ・評価規準を基に，個に応じた支援の準備をして指導に当たった。まだ目標を達成できていない子どもへの支援と，達成できた子どもへの支援を2～3用意して指

導に当たることによって、子どもたちは1時間の学習をより充実感をもって終えることができた。

- ・単元の途中で基礎的な内容について定着の程度を見るため診断テストを行い、形成的評価を取り入れた。診断テストのデータはコース別学習を進める際の資料となり、効果的な指導ができた。
- ・レディネステストを実施することにより、単元に入る前に個別に指導することができた。また、単元内で個を見取ったり、必要に応じてパワーアップタイムを活用して個別指導したりすることができた。
- ・日々の自己評価をする経験の積み重ねにより自分を見つめる力を育てることで、主体的に学ぶことができるようにするとともに、習熟度別学習においては自分に合った適切なコースを選択する力をもはぐくむことができた。
- ・C R T, 学習状況調査の結果を基に、調査後学習する単元の中に、定着していない内容を位置付け、回復を考えながら指導することができた。

(4) 子どもの変容

- ・「分かった」という意識をもつことにより、「学習の主体者」としての子どもたちの意識が強くなり、意欲的に学習に参加するようになってきた。
- ・秋田県学習状況調査における全県通過率との比較は下記のとおりであった。

【6年生における2年間の全県通過率との比較】

	国語	社会	算数	理科	合計平均
平成14年度	-6.1		-1.5	-2.8	-3.5
平成15年度	-5 ↑	-4.8	+0.4 ↑	+1.5 ↑	-2.7 ↑

- ・学習のアンケートによる「好きな教科」の5月と2月を比較すると、

3年	算数	4年	国語	社会	5年	理科
5月	41	5月	39	29	5月	45
2月	60 ↑	2月	52 ↑	45 ↑	2月	53 ↑

と大きく変化している。

- ・学習のアンケート(5月実施)の分析より、家庭での学習状況が明らかになり、各学年の実態に応じた家庭学習の手引きを作成することができた。このことにより家庭での学習の習慣化が図られてきている。また、学習に対する意識が向上してきているとも考えられる。

【家庭学習の習慣化】

	宿題がなくても毎日する	宿題があったときだけする	あまりしない	しない
5月	40%	44%	14%	2%
2月	52% ↑	41%	6% ↓	1% ↓

【家庭での学習時間】

	0~20分	21~30分	31~60分	61~90分	91分以上
5月	37%	33%	21%	6%	3%
2月	25% ↓	30% ↓	34% ↑	8% ↑	3%

2. 今後の課題

- ・本校の子どもたちの実態を今一度とらえ直し、めざす子ども像（各教科において身に付けさせたい力・伸ばしたい力）をより明らかにし、本校の学力のとらえを明確にする。
- ・学び合いを通して学習意欲を高め、確かな学力を身に付けさせるための授業の姿を明らかにしていく。
- ・個人差に応じるための指導方法（チームティーチング等を活用した）を各教科（国語・算数・理科）ごとに明らかにする。例えば、チームティーチングや習熟度別、課題別などのコース別学習を、どんな場合にどんな方法が有効か類型化し、日常実践に効果的に生かしていけるようにする。
- ・基礎・基本の定着を確実に図るために、個に応じた指導をふまえた単元計画を充実させていく。

・学力等把握のための学校の取組

- ・秋田県学習状況調査の実施と分析（年1回4～6年）
- ・C R T学力検査の実施と分析（年1回全学年）
- ・能代市山本郡一斉算数テストの実施と分析（年1回）
- ・全校漢字・計算テストの実施と分析（年2回）
- ・学習に関するアンケートの実施と分析（年2回）

・フロンティアスクールとしての成果の普及について

- ・本校授業研究会の近隣地区小・中学校への公開（年6回，7授業）。
- ・秋田県教育研究発表会において本校1年目の実践を発表した。
- ・本校のホームページ（<http://www.shirakami.or.jp/~yonsho1/>）において「フロンティアスクール」のページを新設し、今年度行った授業研究会における「学習指導案」、今年度作成した国語・算数・理科における「発展的な学習・補充的な学習展開モデル（案）」、日々の授業における「きめ細かな指導授業記録」等を公開した。
- ・平成16年11月17日に公開研究会を開催予定。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- | | | | | |
|----------------------|--|---|--|--|
| 【新規校・継続校】 | <input checked="" type="checkbox"/> 15年度からの新規校 | 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | 6学級以下
13～18学級
25学級以上 | 7～12学級
<input checked="" type="checkbox"/> 19～24学級 | | |
| 【指導体制】 | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導
一部教科担任制 | <input checked="" type="checkbox"/> T・Tによる指導
その他 | | |
| 【研究教科】 | <input checked="" type="checkbox"/> 国語
生活
体育 | 社会
音楽
その他 | <input checked="" type="checkbox"/> 算数 | <input checked="" type="checkbox"/> 理科
図画工作
家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 | 無 | | |